

## 第4章 日本語指導・教科指導・進路指導に関すること

### 1 日本語指導について



#### 指導者が日本語しか話せなくても大丈夫！

日本語しか話せないから指導できないと思っていませんか？ 日本語だけで指導できます。ただし、文法や漢字だけを覚えさせるような、いわゆる「日本語の形式」の習得を目標とした教育ではなく、児童生徒の得意なことや経験等を生かして、工夫をしながら「話す・読む・書く・聴く」の力が総合的に身につくように学習を進めていきましょう。外国人児童生徒等にとって言語を獲得することは、知識や技能を獲得するとともに思考力を育んだり、他者との関係性を構築したり、アイデンティティを形成したりすることなどにつながる、ということを理解して指導することが大切です。

#### (1) 指導を始める前にしておきたいこと

##### 現状把握

- 来日前の教科学習経験  
(国や地域によってカリキュラムは異なる)
- 基礎的な学力(既習内容についてどの程度の知識があるか)
- 日本語の力(DL A、日本語習得確認シート等)
- 母語の力(子ども多文化共生サポーター等によるチェックやDL A等の活用)
- 家庭での学習環境(保護者の意識や協力姿勢等)

##### チームづくり

- 日本語指導等が行えるよう教職員の役割分担を決める
- 今後の指導・支援の方向性等を話し合う(定期的)
- 時間割りを作成する → 全ての教職員でかわる

##### 指導計画

- 「誰が」「何を」「いつ」「どこで」「どのくらいの頻度で」指導・支援するかという計画を組織的に考える
- 日本語指導の目標を設定し、個別の指導計画を作成し、指導の見通しをもつ  
※長期:1年、2年 ※中期:各学期 ※短期:週単位、1ヶ月
- 指導内容を検討する(教材などの選定・作成)→p.44、p.123
- 評価方法の決定 →p.46、p.60

## (2) 日本語指導が必要な児童生徒とは

- 日本語で日常会話をすることが難しい児童生徒
- 日常会話はできているが、学習場面で使われる学年相当の言語の習得ができていないため、授業（学習活動）への参加が難しい児童生徒

（日本語指導が必要な児童生徒は日本国籍の児童生徒も含まれます）

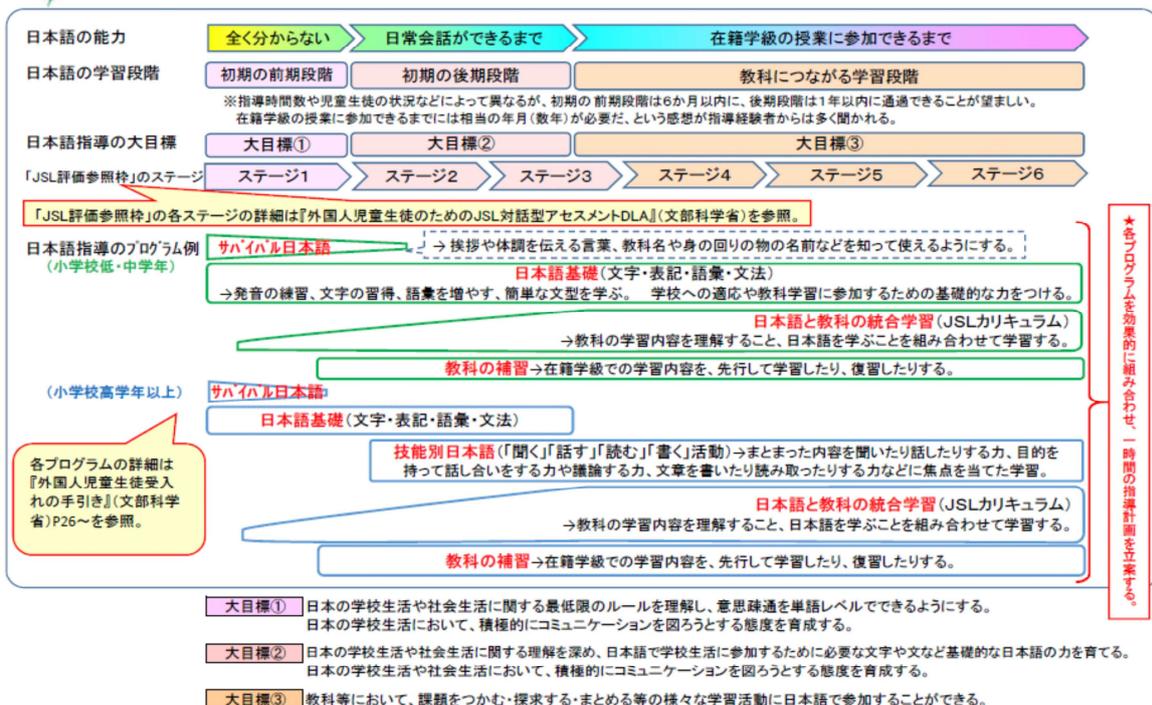
### 【外国人児童生徒等の様子を丁寧にみていこう】

日常会話ができ、意思疎通もほぼできている児童生徒であっても、授業において授業者の話していることがわからないということはめずらしいことではありません。それは、語彙や言い回しが生活場面と授業場面では異なるからです。

また、教科によっては、日本の文化や歴史が深く関係する内容もあり、前提となっている知識が十分でないこともあります。このように、授業の場面では特に、指導や支援を必要とする場合があるので、児童生徒の実態把握や理解に努めましょう。

※ステージ1～4までが「日本語指導が必要な児童生徒」です。

### 日本語の能力に応じた指導プログラム例



【作成】日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方に関する検討会議

(<http://data.casta-net.jp/kyouzai/shidou/shidou-program-rei.pdf>)

### (3) 日本語指導で大切なこと

外国人児童生徒等に日本語を指導する時に大切なことは、例えば、次の3点のようなことが考えられます。

- ① 直感で理解させる
- ② 楽しませる
- ③ 自然に反復させる

※大蔵守久著『日本語学級①初期必修の語彙と文字』（凡人社、1999）

児童生徒が興味をもって学べるような授業づくりをしましょう。

### (4) 日本語指導はどのように教えればいいのか？

日本語指導を始める時、まず、どのような教材を使えばいいのかという疑問が出てくるでしょう。しかしながら、どの教材を使うのかよりも「どのように教えるか」ということの方が重要です。日本語が全くわからない場合は、ひらがなや漢字をプリントに書かせる指導を中心にするのではなく、「見る」「聞く」「感じる」「考える」という過程を通して、例えば、次の①～⑤のように指導をしていきましょう。

- ① 指導場面では、短く簡潔に説明する（不要な言葉は肝心な言葉をぼやけさせる）
- ② 何を学ぶのか明確に示してから授業に入る
- ③ テンポよく繰り返しを意識した展開にする
- ④ できるかぎり実演したり、具体物やイラストを提示したりする
- ⑤ 1時間の授業で「見る」→「聞く」→「やってみる」を取り入れ、抑揚をつける

※大蔵守久著『日本語学級①初期必修の語彙と文字』（凡人社、1999）参考

### (5) 日本語指導はだれがするのか？

日本語指導は、全ての教職員で協力して行います。なぜなら、来日直後は、一日数時間、別室で取り出し指導をする必要があるからです。また、在籍学級で授業を受ける場合、どの授業でも「日本語指導」を意識する必要があります。

そのため、①誰が②どの時間に③何を④どのように指導すればいいのかを話し合い、計画的に指導を進めていきましょう。

生活の中で自然に習得できる日本語と、指導しなければ習得することが難しい学習場面での日本語があります。他学年の教員や専科の教員も含めて、子どもの学びを全ての教職員で支えていきましょう。

また、日本語指導支援員や子ども多文化共生サポーター等との連携も大切です。

## (6) 日本語指導プログラム（取り出し指導における指導内容・指導方法の一例）

日本語指導といっても、その内容は様々です。「来日直後」「日常会話ができるまで」「在籍学級の授業に参加できるようになるまで」などの段階を踏まえつつも一人一人に合った学習内容を決定することが必要です。児童生徒の滞在期間や日本語習得状況、生活への適応状況等を考慮し、個別の指導計画を作成するなど、学習内容を選択しましょう。

プログラム名	対象	ねらい	学習活動
① サバイバル日本語	来日直後の児童生徒	学校生活や社会生活について必要な知識や日本語を使って行動する力の育成	挨拶の言葉や具体的な場面で使う日本語表現を学習すること
② 日本語基礎	来日直後の児童生徒	日本語の基礎的な知識や技能の育成	A) 発音指導 B) 文字・表記 C) 語彙指導 D) 文型指導
③ 技能別日本語	ある程度日本語を習得した小学生高学年以上、特に中学生には有効	まとまった内容を聞く力や話す力、目的を持って話し合いをする力や議論する力、文章を書いたり読み取る力の育成	「聴く」「話す」「読む」「書く」の言葉の4つの技能のうち、どれか一つに焦点を絞った学習
④ 日本語と教科の統合	文字の読み書きや簡単な会話ができるようになった段階	日本語で学習活動に参加する力の育成	日本語を学ぶことと教科内容を学ぶことを、一つのカリキュラムとして構成
⑤ 教科の補習	文字の読み書きや簡単な会話ができるようになった段階	在籍学級で学習している教科内容を理解するための補習	取り出し指導で復習的に学習したり、入り込み指導として支援者の補助を受けて取り組む

「外国人児童生徒受入れの手引き 改訂版」（文部科学省、2019）一部加

## (7) どんな教材を使用すればいいの？

使用する教材は、当該児童生徒の日本語の習得状況や発達段階、興味関心を大切にしながら選びましょう。資料編（p.123～）にも教材を紹介しています。

- 1 『日本語学級①初期必修の語彙と文字』大蔵守久著（凡人社、1999）※シリーズで②あり
- 2 「日本語指導ハンドブック その1・その2」東京都教育委員会（p.128 QRコードあり）  
（<https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/document/japanese/handbook.html>）
- 3 『おひさま「はじめのいっぽ」子どものための日本語』山本絵美他著（くろしお出版、2018）
- 4 『こどものほんご』ひょうご日本語教師連絡会議子どもの日本語研究会著（株）スリーエーネットワーク、2002）※他シリーズあり
- 5 「かすたねっと」（文部科学省）（p.146 QRコードあり）（<https://casta-net.mext.go.jp>）

## (8)日本語習得状況を把握しよう

外国人児童生徒等にとって適切な指導を進めるためには、日本語の習得状況を把握することが大切です。時期等を考えながら、年に1回程度は実施しましょう。

### 1 外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA (p. 126)

対象児童生徒	日常会話はできるが、教科学習に困難を感じている児童生徒（日本語の習得状況等によって活用できる章が異なる。）
特徴	・「対話型」を基本とし、指導者と児童生徒が一对一で向き合うことで、児童生徒の学習の成果（教科学習に必要な日本語の力）を把握すると同時に、教科学習支援のあり方を検討するための情報が得られるように構成されており、実施過程そのものを、学びの機会として捉えるところに特徴がある。
留意すること	・1回の所要時間は45～50分以内で実施することが望ましい。測るべき技能（話す・読む・書く・聴く）は、児童生徒の習得状況等によって異なるため、4技能を1度の実施する必要はない。 ・使い方映像マニュアル ( <a href="http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/dla.html">http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/dla.html</a> )
発行元	文部科学省
アクセス先	<a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm</a>

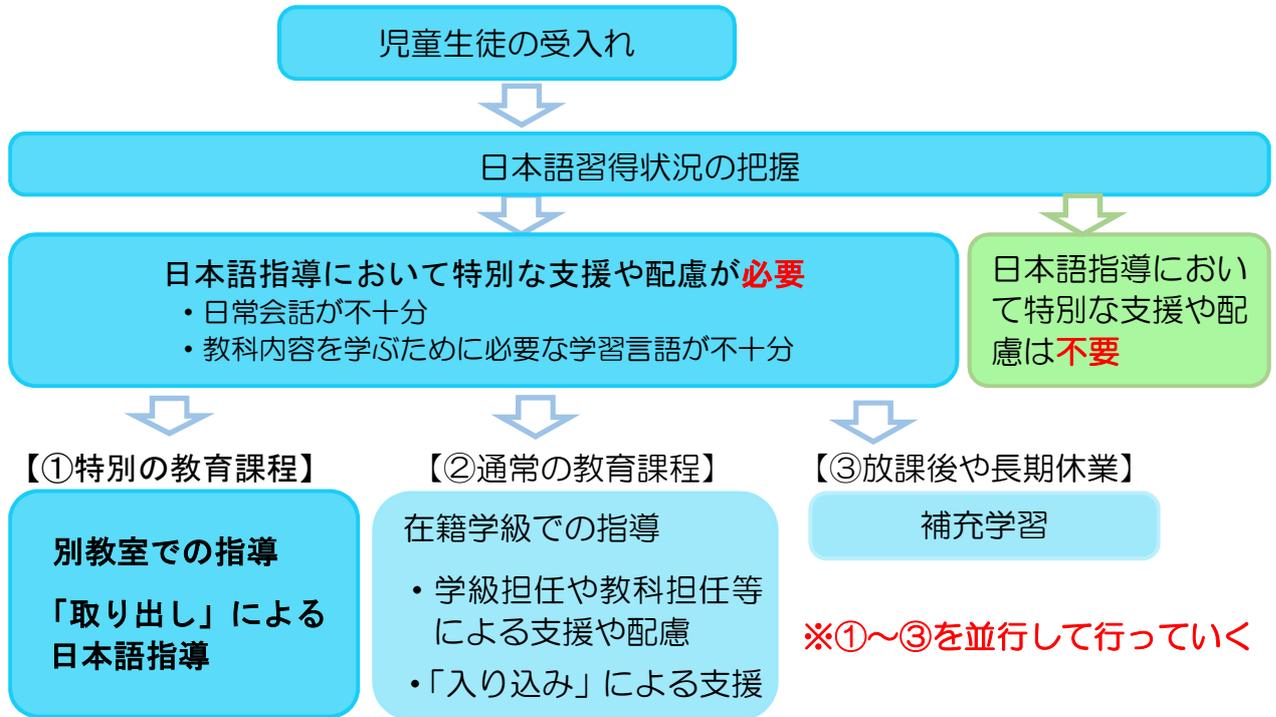
### 2 日本語習得度チェックシート（試案）～効果的な日本語指導をすすめるために～ (p. 126)

対象児童生徒	日本語環境に入った直後から初期指導が終わるまで
特徴	・「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」「文法」の5観点から診断する内容構成になっている。「絵シート」や「単語シート」などの診断シートが入っているのでコピーして活用することができる。
留意すること	・初期指導終了後は、「DLA」や「確認シート」に変更する必要がある。
発行元	兵庫県日本語指導連絡協議会
アクセス先	<a href="http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/index.html">http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/index.html</a>

### 3 日本語習得度確認シート (p. 126)

対象児童生徒	日本語環境に入った直後から在籍学級で学習できるようになるまで
特徴	・4技能（話す・読む・書く・聴く）について、できることとできないことを一覧表でチェックしながら確認することができる。確認する項目は、学習目標項目例になっているので、「個別の指導計画」「指導目標」「指導計画」等の参考にすることもできる。
留意すること	・順を追って各目標を達成していくわけではないので、できることとできないことが均等にならない場合がある。
発行元	文部科学省『「個別の指導計画」作成参考資料②学習目標例～初期段階～』より作成
アクセス先	<a href="http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/index.html">http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/index.html</a>

日本語指導が必要な児童生徒に対して、日本語指導を教育課程内で指導する場合に「特別の教育課程」を編成して実施することができます。（平成26年4月より）  
 「かすたねっと」（文部科学省）→p.146



【1 手続きは必要なの？】

- ① 「特別の教育課程編成実施計画」を作成して、市町組合教育委員会へ提出します。
- ② 「個別の指導計画」の「児童生徒に関する記録（様式1）」と「指導に関する記録（様式2）」を作成します。（様式等は p.56～57 参照）

【2 どんな内容を指導するの？】

- ・日本語で学校生活を営み、学習に取り組めるようになるための指導をします。

【3 誰が指導するの？】

- ・教員免許状を持っている教員が主たる指導になります。同室で指導補助者（支援員）が支援することはできます。

【4 どのくらいの時間をかけるの？】

- ・原則、年間10単位時間から280単位時間
- ・集中的に指導を行う時期を設けたり、1ヶ月に1単位だけ取り出して現状を把握したりするなど、日本語指導が必要な児童生徒の状況によって柔軟に計画を立て、実施することができます。

【5 評価はどうすればいいの？】

- ・学習に対する取組の姿勢・態度、日本語習得状況等の多面的な観点から総合的に評価します。

## (9)日本語指導の実践事例

### A：日本語環境に入ってすぐから、生活に慣れはじめるまで（ステージ1～2）

来日直後の外国人児童生徒等は、文化の違いや意思疎通が難しいため、学校生活のあらゆる場面で困難に直面します。まずは、緊急性の高いことを教え、安心して過ごせるように指導や支援をしましょう。

- 1 意思疎通が難しい場合でもイラストや写真、SNS等を使うと比較的伝わりやすくなります。
- 2 子どもが聞き取りやすいように、「やさしい日本語」(p.28) でゆっくりと短く話しましょう。
- 3 習得させる言葉を発音させるとともに、意味と音をつなげ、理解を促しましょう。

※「外国人児童・生徒のためのサバイバルカード」WEB版 → 札幌子ども日本クラブ（2007）



#### 【サバイバル日本語】（一例）

観点	使用する表現例
健康・衛生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「トイレに行きたい（です）」</li> <li>・「お腹/頭が痛い（です）」</li> <li>・「アレルギーがある（あります）」</li> <li>・「食べられない（です）」（食べられません）</li> <li>・「のどがかわいた」（のどがかわきました）</li> </ul>
安全な生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「危ない（です）」</li> <li>・「助けて（ください）」</li> <li>・「赤は止まれ、青は進め」</li> </ul>
関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇〇（自分の名前）です。どうぞよろしく」・「〇〇さん」</li> <li>・「おはよう」「さようなら」</li> <li>・「ありがとう」「ごめんなさい」</li> <li>・「これ、かして（ください）」</li> <li>・「一緒にあそぼう」</li> </ul>
学校生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「わからない」（わかりません）</li> <li>・「どこ（ですか）」</li> <li>・「ある、ない」（あります、ありません）</li> <li>・「いい、だめ」（いいです、だめです）</li> <li>・「明日の持ち物は？」</li> <li>・教室にあるものの名前（つくえ、いす、プリント、ほうき等）</li> <li>・学校生活でつかう言葉（授業、掃除、給食 (p.48)、休み時間等)</li> </ul>

「外国人児童生徒受入れの手引き 改訂版」（文部科学省、2019）参考

## 【取り出し(別室)での指導】

詳細は p. 90

3年 日本語「相手に伝えよう」「ふやして」「へらして」  
－給食場面で－



給食場面のデモンストレーションを見たり、実際に劇をやってみたりすることを通して、体験的な活動を通して自然に日本語の表現を使おうとしています。

みそしる、すくない。  
ふやして～。

### ◇指導や支援のポイント

日本語の習得が進んでいない児童生徒への日本語指導は、文型（文法）や語彙・漢字をプリントで練習するだけになることも少なくありません。このような場合、練習が単調になったり、実際に「使う」ことにつながらなかったりして、低年齢児の場合は特に定着が難しいことも少なくありません。このような場面・テーマ別の指導法であれば、ビンゴゲームやロールプレイの体験的な活動を通して、抵抗なく日本語の表現になれていくことができます。

### ◇対象の児童

3年生1名。ひらがなを1字ずつ読むことができる。あいさつ、1～20の数字、よく使う物の名前、「すき」「すきじゃない」「たすけて」などいくつかのサバイバル日本語を話すことができる。

### ◇本時の目標

給食の場面で、「へらして」「ふやして」など相手に伝えたいことを話すことができる。

### ◇授業の流れ

- 1 給食の配膳などのデモンストレーションを教師が行うことにより、本時の学習の見通しをもつ。
- 2 食べ物の絵を見て、すき・きらいを言う。
- 3 食べものビンゴゲームをする。
  - ・ビンゴゲームは「〇〇はある？」  
「ある（ない）」などの会話をしながら行う。選んで貼る
- 4 絵カードで「おいしい」「すくない」を理解する。



- ・ 1枚ずつ絵カードを見せ、教師が「おいしい」「すくない」を言う（デモンストレーション）。
- ・ 食べ物カードを「おいしい」「すくない」の категорияに分類するよう促し、絵カードを見て「おいしい」「すくない」が言えるよう支援する。



5 給食のロールプレイをする。

- ・ まず、教師が配膳役、児童に受け取り役で行う。交代しながら練習するよう促す。
- ・ 教師は児童が嫌いな食べ物をわざと多くしたり、好きな物を極端に少なくしたりして、児童が「〇〇、ふやして。」「△△、おいしい。へらして。」と言いたくなる場面を作る。



みそしる、すくない  
ふやして～。

6 ワークシートに文を書いて練習する。

- ・ 絵に合わせて、「△△、ふやして。」などを書き込めるよう支援する。



※サバイバル日本語 (p.47) 「給食」場面を取り上げた授業実践の一例です。

## B：日常会話に参加しはじめる（ステージ2～3）

【取り出し(別室)での指導】 6年 日本語「伝えよう！この絵本の魅力」



イステット…  
ペペ…嫌い

詳細は p. 100

「母国の絵本の魅力をクラスのみんなに伝える」ための活動の中で、聴く・話す・読む・書くなど主体的に日本語を使っています。

そうそう。

イステットは、ペペが嫌いです。

### ◇指導や支援のポイント

日本語の習得が進んでいない児童生徒への日本語指導は、文型や語彙・漢字の積み上げ指導になりがちです。このような指導が合っている場合は良いのですが、練習が単調になったり、実際に「使う」ことにつながらなかったりして、定着が難しいことも少なくありません。

この授業では、文化・歴史・社会的テーマの母国の絵本を題材とするなど、クラスで自分の興味のある母国の本の内容を「伝える」という活動が中心になります。

そのため、次のようなメリットがあります。

- ・興味のある母国の絵本なので、伝えたいという動機が生まれる。
- ・「伝える」のに必要な日本語を学習することができ、「使う」に直結する。
- ・児童の発した日本語を教師が言い直すことで、正確な日本語の習得につながる。
- ・聞く・話す・読む・書くの活動をバランスよく取り入れ、伸ばすことができる。
- ・この絵本のテーマである「フィリピンの植民地化と独立の歴史的背景」「差別と平等」「共生」について母語や英語で考え、日本語で表現する活動を通して、児童の年齢相応の思考活動ができる。

### ◇対象の児童

フィリピンから来日し9ヶ月になる。母語はタガログ語で、フィリピンの小学校では、英語で学習してきた。日本語は、教師がやさしい日本語でゆっくり話すと内容を聞きとることができ、ほぼ理解できる。

【DLA 結果】

- 語彙力チェック…70%
- 話す…ステージ3
- 読む…ステージ2
- 書く…ステージ2
- 聴く…ステージ3

## ◇本時の目標

- ・本のあらすじや魅力を紹介する文章を書くことができる。
- ・「○○は～と思いました。（言いました）」の文型を使って、あらすじを話すことができる。

## ◇授業の流れ

※本時：7/12 前時の活動：英語で要約を書く。



- 1 本時のめあてを確認し見通しを立てる。

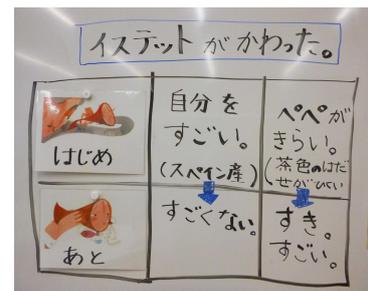
めあて 日本語で本の紹介文を書こう。

- 2 日本語であらすじを話す。

- ・前時に書いた英語の要約を読み、あらすじを思い出せるよう支援する。
- ・ジェスチャーを使ってよいこと、挿絵を見直してよいことを伝える。
- ・児童が発した日本語を言い直しながら、正確な日本語の文を板書する。その際、否定せず、児童の発話を肯定し、励ます。
- ・対話を重視しながら、全ての重要なあらすじを板書する。



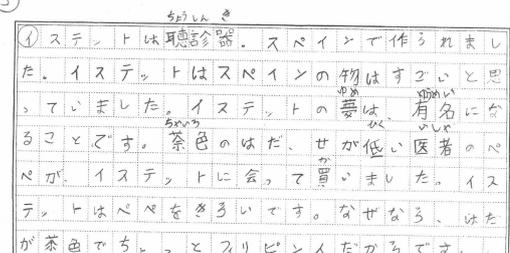
- 4 主人公（イステッド）の変化を考える。
  - ・児童と対話をしながら、主人公のペペへの印象が変化した理由が考えられるよう支援する。
  - ・主人公の変化から「人を見た目や○○人で差別するのはよくない」や「自分だけでなく、みんなを大切にする」ところに気づかせる。



- 5 構成を考え、紹介文を書く。

- ・あらすじの板書を活用し、3つの構成要素（あらすじ、フィリピンの植民地化と独立の歴史、本の魅力）の順序を考え、紹介文を構成するよう促す。
- ・直す必要があるところは、対話をしながら、一緒に修正する。

③ 日本語で、本の紹介文を書こう



## C：日常会話はある程度できるが、学習内容によっては、授業に参加することが難しい（ステージ3～4）

【取り出し(別室)での指導】 2年 国語科「かさこじぞう」

詳細は p. 114



児童がじいさま役になって劇をすることで、「しっかりあごのところでむすんであげました」「手ぬぐいをかぶせました」等、じいさまの行動を表す言葉を体験的に表現しています。

### ◇指導や支援のポイント

教師の劇を見たり、児童がじいさま役になって劇をしたりすることで、文中の言葉の意味が理解できたり、物語の情景をイメージ豊かに想像することができます。

また、じいさまの人柄を読み取るときに、「雪や氷をさわったことがありますか。」と尋ね、「とても冷たかった。」と自分の経験を語ったうえで、「ふぶきの中、じぞうさまに売り物のかさや自分の手ぬぐいをかぶせたじいさまはどんな人だと思いますか。」と問うことで、じいさまの人柄を想像することができます。

### ◇対象の児童

2年生3名。

<A児>会話はあまり流暢ではなく、学年相応の日本語の読み書きにも課題があるが、教師の問いに対して自分の考えを持つことができる。

【DLA 結果】

●語彙力チェック…75%（タガログ語（母語）64%）

<B児・C児>会話は流暢で、進んで発表し自分の考えを友だちに伝えることができる。また、教科書をつまみながらも自力で読むことができる。文章を書くことには課題がある。

【DLA 結果】

B児●語彙力チェック…91%（タガログ語（母語）29%、英語24%）

C児●語彙力チェック…95%（ポルトガル語85%）

### ◇本時の目標

- ・じいさまが地蔵様にしたことを読み取り、じいさまの地蔵様に対する気持ちを想像し、おもしろい（いいな）と思ったところを見つけることができる。
- ・「なでました」「むすんであげました」などの言葉に気をつけながら、じいさまが地蔵様にしたことを動作化することで、じいさまの地蔵様に対する気持ちを考

えることができる。

- ・第三場面のおもしろい（いいな）と思ったところを見つけワークシートに書くことができる。

### ◇授業の流れ ※本時：6/16

- 1 前時までの学習をふりかえり、本時のめあてを確認する。
- 2 第三場面の教師の劇を見たり、範読を聞いたりする。
  - ・教師とフォリナーサポーターの劇を見て、場面の情景をイメージ豊かに想像できるように支援する。
  - ・場面の後半部分の劇をすることを伝え、じいさまの行動に着目しながら範読を聞くよう促す。



- 3 第三場面後半の劇をする。
  - (1) じいさまが地蔵様にしたことや話したことを発表する。
    - ・児童の発表に合わせて、じいさまが地蔵様にしたことや話したことを書いた短冊を黒板に掲示し、順序を正しく捉えられるようにする。
  - (2) じいさまと地蔵様の役になって劇をする。
    - ・児童に動作化をさせ、「かきおとしました」「なでました」などの動きをふりかえる。
    - ・じいさまの動きや会話について、お互いにアドバイスしながら劇ができるように支援する。



- 4 地蔵様にかさこをかぶせて帰っていくときのじいさまの気持ちを想像して発表する。
  - ・「うれしい」「かなしい」などの気持ちを表すカードを黒板に掲示しておき、気持ちを考えるヒントを提示する。
  - ・じいさまが帰るときの挿絵や教科書の「やっと、安心しました」という言葉から、じいさまの気持ちを考えるよう促す。

- 5 第三場面のおもしろい（いいな）と思ったところを見つけてワークシートに書く。
  - ・ワークシートに書き方の文型を記入したり、形式を第一場面から類似したものにしておく。
  - ・フォリナーサポーターと、おもしろいところを母語を使って考えたり、書き上げた文章を母語で伝えたりすることで母語力の向上を図る。



「じいさまがじぞうさまにかさこをかぶせるところがおもしろいと思いました。りゆうは、じいさまがやさしいところが心にのこったからです。」





「ノルマントン号事件の風刺画を見て、気づいたことを書き込んでいきましょう。」

写真や絵などのボードを用いて、気づいたことをどんどんボードに書き込んでいくことで、友だちとの対話が進んでいます。

### ◇指導や支援のポイント

文字言語による意味理解や意思疎通が難しい場合、イラストや写真を活用することでイメージが浮かびやすくなり、友だちとの対話も促進されます。

また、新しい学習言語を学ぶときには、例えば「条約＝決まり・約束」「改正＝変える」等の「言葉のカード」を提示することで、学習言語の意味理解を深めることができます。

### ◇対象の児童

グループでの話し合いに積極的に参加し、発言することができる。また、文章を読んで内容の大筋を理解したり、簡単な文章にまとめたりすることもできる。しかし、社会科の歴史で学ぶ学習言語「文明開化」「明治維新」等の意味理解に課題がある。

#### 【DLA 結果】

- 語彙力チェック・・・100%
- 話す・・・ステージ 5
- 読む・・・ステージ 4
- 書く・・・ステージ 4
- 聴く・・・ステージ 6

### ◇本時の目標

- ・日本が諸外国と不平等条約を結んだが、条約改正に向けて日本国内の動きが高まっていったことを理解することができる。
- ・ノルマントン号事件の風刺画から気づいたことやわかったことを説明することができる。
- ・事件の背景には、諸外国と結んだ不平等条約が関係していることを読み取ることができる。

## ◇授業の流れ ※本時：2/8

- 1 これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。

**めあて 一枚の絵から、世界における日本の状況を読み取ろう**

- 2 ノルマントン号事件の風刺画について考える。

- (1) ノルマントン号事件の風刺画を見て、気づいたことや見つけたことをボードに書き込み、発表する。

- ・自身の気づきをボードに書き込み、ペアの人に説明するよう促す。
- ・書画カメラを使うなど、子どもの気づきが視覚的にわかりやすいように支援する。



「なぜ外国人だけ、船の上にいるのか。」

「船が沈没しそう、おぼれている人もいる。」

「船の上に国旗が立っている（日本の旗ではない）。」

- (2) 船長がおぼれている日本人に向かって話をしていることを想像してワークシートに書く。

- ・船長の左手の部分を拡大したものを画面に映し、船長の左手の意味を理解しやすいように支援する。

- 3 気がついたことをもとに問いを作り、答えを予想し、調べる。

- (1) 問いを作る。『なぜ船長は、軽い罪ですんだのか』等

- ・問いという言葉を意識させるために「なぜ～だろう」の形で考えるよう促す。

- (2) 問いに対する予想を考える。

- ・「～のため、～だから」の話型を使って、考えの根拠を明確にするよう促す。『外国人の復讐が怖かったから。』等

- (3) 問いに対する答えを教科書からみつける。

- ・答えの部分がわかるように、赤線を引くよう促す。



- 4 ノルマントン号事件をきっかけに不平等条約改正への世論の動きが高まっていったことを知る。

- ・当時の新聞記事を見て、世論の動きが高まっていったことを確認する。
- ・学習言語の意味理解のために、「条約＝決まり・約束」「改正＝変える」のカードを提示する。

- 5 本時の学習でわかったことをまとめる。

- ・本時の学習でキーワードになる「外国」「不平等条約」「条約改正」の3つの言葉を使って、まとめるよう促す。

1 「個別の指導計画 児童生徒に関する記録」(様式1)の作成

(※この様式は子ども多文化共生センターHPからダウンロードできます。p.146)

学習指導を行うにあたり、該当児童生徒の①言語環境②これまでの就学状況、③子ども多文化共生サポーター等の支援状況、④学校外での支援状況等を、可能な範囲で記録しておきましょう。

様式1 (児童生徒に関する記録)

個別の指導計画 (記入例)

フリガナ		性別		国籍	ベトナム
名前	<ul style="list-style-type: none"> <li>フリガナ：正確に聞いて記入する</li> <li>名前：本名 (p.26 参照) を記入する</li> </ul>	生年月日	平成 年 (西暦 年) 月 日		
住所		連絡先			
入国年月日		学校受入年月日	令和 年 (西暦 年) 月 日		
家族構成	名前	続柄	国籍	本人との言語	日本語理解の状況・備考
		父	ベトナム	ベトナム語	簡単な日本語での会話が可能
		母	ベトナム	ベトナム語	日本語での会話は難しい
		妹	ベトナム	ベトナム語	日本語での会話は難しい
家庭への連絡 ■はい□いいえ	<input type="checkbox"/> 日常的な連絡が日本語で可能 <input checked="" type="checkbox"/> 大切な連絡に翻訳文書が必要		<input type="checkbox"/> 懇談会や行事の説明会が日本語で可能 <input checked="" type="checkbox"/> 懇談会や行事の説明会に通訳が必要		
学年	年齢	就学等の状況・期間		特記事項	
	0	出生地 ベトナム ○○○			
	1	ベトナム			
	2	ベトナム			
	3	4月に来日、9月に帰国			
	4	ベトナム			
	5	ベトナム			
	6	2月に来日、○○市立○○保育園に入所			
小1	7	○○市立○○小学校に入学 特別の教育課程による指導		子ども多文化共生サポーター(○○) 地域の日本語教室「○○」週1日	
小2	8	○○市立○○小学校 特別の教育課程による指導		バイリンガル支援員(○○) 地域の日本語教室「○○」週1日	
小3	9	9月ベトナムに帰国 ベトナム○○小学校編入			
小4	10	ベトナム○○小学校 3月に来日			
小5	11	○○市立○○小学校に編入 特別の教育課程による指導		バイリンガル支援員(○○) 地域の日本語教室「○○」週1日	
小6	12	○○市立○○小学校卒業 特別の教育課程による指導		バイリンガル支援員(○○) 地域の日本語教室「○○」週2日	
中1	13	○○市立○○中学校入学 特別の教育課程による指導		バイリンガル支援員(○○) 地域の日本語教室「○○」週2日	
中2	14	○○市立○○中学校・特別の教育課程による指導		地域の日本語教室「○○」週2日	
中3	15	○○市立○○中学校・特別の教育課程による指導(→進路先)		地域の日本語教室「○○」週2日	
その他 (中学校卒業後の進路希望、宗教上の配慮事項等) 全日制高校進学後、大学に進学し、日本で就職を希望している。 ○○教のため○○を食べることができない。					

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
学級担任	※※※	※※※			※※※	※※※	※※※	※※※	※※※
指導者・支援者	△△△	△△△			△△△	△△△	△△△	△△△	△△△
取り出し指導の 資料時間数	150時間	120時間			150時間	120時間	175時間	120時間	105時間

## 2 「個別の指導計画 指導に関する記録」(様式2)の作成

(※この様式は子ども多文化共生センターHPからダウンロードできます。p.146)

個別の指導計画															
様式2(指導に関する記録)															
年組 フリガナ	○年	○組	作成者	○○ ○○	作成日	令和○年○月○日									
児童生徒	○	○	更新日	○○ ○○	更新日	令和○年○月○日									
指導者 支援者	○	○	場	「DLA」を実施する場合は、 4領域を同時に測定しない	出し 時数	週	○	時間							
日本語の力	話す	2c	体調を訴えたり、許可をもらったり、簡単な質問をしたりすることができる。	3d	測定後に値を入力すると文章に反映される (エクセルデータ活用の場合)	日本語能力測定方法		DLA							
	読む	2j	絵などの支援を得て、日常生活でよく使われる語彙で書かれた短文を読んで理解することができる。	2k		ステージ	話す	読む	書く	聴く					
	書く	2c	小学校1年で学習する漢字をいくつか書くことができる。	2g	よく使われる語彙や慣れ親しんでいる表で、短い文を書くことができる。	回数	○	月	○	日	2	2	2	3	
	聴く	3a	身近な内容について、 <small>連文の短い</small> 大意を理解することができる。		身振りなどの支援を得て、普通の教師の話聴いて大意を理解	2回目	○	日	○	日					
指導目標 (大目標)	3		教科等において、課題をつかむ・探究する・まとめる等様々な学習活動に日本語で参加することができる。		「日本語の能力に応じた指導プログラム例」(文部科学省)の「大目標①～③」を参考にして記入するとわかりやすい										
「特別の教育課程」による日本語指導	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	累計	
	授業 計画	16	16	20	16	(補:10)	12								
	授業 実績	16	16	16	12	(補:10)	12								
	サ	→													
	基														
	技														
	統														
	補														
	指	<p>・平易な文で構成された内容の文章を読んで理解できるようにする。</p> <p>・読書指導を取り入れ、物語の好きな場面について、簡単な感想が書けるようにする。</p> <p>・リライト教材(教科書を簡単な日本語に書き換えた教材)在籍学級の予習を行う。</p>													
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲や努力、到達度など個人内評価を行う</li> <li>・授業中の観察や発表、作文、スピーチなどから総合的に評価する</li> <li>・具体的な指導場面等を記入するとわかりやすい</li> </ul>													
評価 (指導内容) (指導方法) (学習状況) 等	前期							後期							
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心のある分野であればある程度まとまった文章を理解できるようになった。</li> <li>・表現することに苦手意識があるようなので、作文を書いたりできるように支援方法を検討する必要がある。</li> <li>・学習意欲はあるが、持ち物が揃わずスムーズに学習に取り組めないことがある。</li> </ul>														
上記以外の指導・課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科は週3時間(在籍学級でTT指導を行った。)</li> <li>・地域の日本語教室「○○○○」に参加している。(毎週土曜日2時間)</li> </ul>														

コラム

「ことばの絵カード」「助詞カード」－授業の工夫－

【丹波篠山市立岡野小学校の実践紹介】



← 自分の気持ちや登場人物の気持ちを考えるとき、作文を書くときに使います。また、授業をふりかえるときに、カードを見せながら「今日の授業はどうでしたか？」とたずねると、授業の感想を意欲的に発表する姿がみられました。

発表や文章を書いたときに助詞が抜けていたり、間違えていたりすると、このカードを



提示しながら、「どれを使うといいですか？」と尋ねて、助詞の使い方を学ばせています。

他にも、「様子を表すことば」「味を表すことば」等のカードを活用して、外国人児童等の語彙や表現力を身に付ける工夫をしています。

コラム

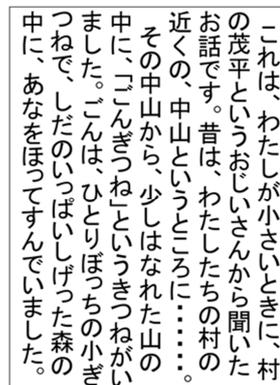
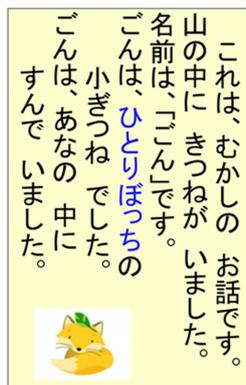
「リライト教材」の活用－授業の工夫－

【丹波篠山市立岡野小学校の実践紹介】（ステージ3の児童）

リライト教材とは、教科書の教材を「表現はやさしく、内容は学年相当レベル」に書き換えたものです。教科書の概要が理解しやすくなります。

取り出し授業において、予習（先行学習）で使うことで、在籍学級の授業に参加しやすくなり、意欲的に取り組むことができました。また、「これなら読める。」と、音読に取り組む姿もみられました。（ステージ3の児童）

【リライト教材】



## 2 教科指導について



### わかりやすい授業をするために工夫しよう！

外国人児童生徒等にとって、授業での困難さは日本語がわからないことだけだと思いませんか？ 国や地域によって学校文化は異なります。そのため、これまで学習したことがない教科等を学ぶ場合もありますので、来日前の就学、学習経験については把握しておきましょう。また、外国人児童生徒等を意識した授業は、日本人の児童生徒にとってもわかりやすい授業であるといえます。

#### 1 わかりやすい授業にするために

- ゆっくりとやさしい言葉（やさしい日本語→p.28）ではっきりと短く話す
- 授業のめあてや見通しを明確に短く示す
- 視覚教材（実物、写真、絵、グラフ等）やICTを活用する
- 黒板の字は大きく見やすく書く
- 漢字にルビ打ちをする
- ワークシートの活用をする
- 母国で学んでいない教科等の内容（日本の文化、歴史、音楽や体育の水泳など）は丁寧に説明したり、指導方法に配慮したりする
- 中学校では教科等の内容が高度になるので、母語の対訳などで内容の理解を促す工夫をする（文部科学省「かすたねっと」等） →p.146

#### 2 理解状況等の把握

- 授業の内容をどの程度理解しているか把握する
  - ・外国人児童生徒等が授業中、質問をしないから授業内容を理解していると思い込まず、どの程度理解しているかを把握しましょう。その日の授業内容のポイントを読ませたり説明させてみるのも有効です。「〇〇さん、大丈夫？」と聞くと、子どもは理解していなくても「大丈夫」と答える場合が多くあります。
- 時々、「取り出し」で、日本語の習得状況や教科内容理解状況等について本人から「聞き取り」（学習相談）を行う
- 教員同士で授業の様子等の情報交換を図り、外国人児童生徒等の得意なことや傾向等を共有し、互いの授業にいかす

### 3 評価等に関する こと

#### 【教科等の評価について】

- 原則、他の児童生徒と同様に評価する
- 日本語が十分でないため、低い評価になる場合があることから、次のような配慮をする
  - ・ペーパーテストだけでなく、授業中の意欲や態度、発表、成果物など様々な方法を活用して、総合的に把握するための工夫が必要です。

#### 【高等学校入学者選抜のための資料作成の留意点】

中学校において教科指導等と比較して「特別の教育課程」による日本語指導を比較的多く受けた経験を持つ生徒が高等学校等への進学を希望している場合は、「特別の教育課程」による日本語指導の所見についても調査書に記載するなどの配慮を行うことが考えられます。（文部科学省）

([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/003/1341933.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1341933.htm))

#### 【自尊心や学習意欲を向上させるための配慮】

- 本人の気持ちに寄り添い、認め励ます
- 丁寧な説明を心がけ、意欲的に学べるように支援する
  - ・日本語が十分ではないことにより、自分の本来の力を発揮できずに自尊心が低下したり、学ぶ意欲を喪失したりすることを、指導者は理解しておく必要があります。

#### 【保護者等への対応】

- 評価の根拠等を丁寧に説明し、理解を得る
  - ・授業への参加意欲や提出物等、出席日数も評価につながることを事前に説明しておく必要があります。特に低い評価になった場合には、その理由（日本語習得状況等）について丁寧に説明する必要があります。
  - ・併せて、日本語の習得のために取り出して指導する場合には、説明し、理解を得ておきましょう。
- 日本の学校の進級制度について説明をする →p.62
  - ・留年制度の厳格な国では、「進級できる」ことは「成績が良好」と解釈することがあります。進級と成績の関係について、説明をしておく必要があります。

#### 4 宿題に関する こと

##### 【保護者等への対応】

- 宿題を出す意味等について保護者に丁寧に説明する
  - 保護者が自身の経験上、宿題そのものについて知らない場合が想定されます。そこで、日本の学校では、日常的に宿題を出していること、家庭での学習習慣を大切にしているということを説明する必要があります。
  - 子どもの宿題の取組状況を保護者が確認することも大切だということを理解してもらいましょう。

##### 【児童生徒への対応】

- 日本語の習得状況や学力に応じて、内容に配慮する
- 一人でも取り組めるように内容を工夫する
  - 日本語が話せない保護者の場合、音読のチェック等、支援ができない家庭もあることを理解しましょう。
  - 「教科書や資料集を見ること」や「図書館やインターネットを活用する方法」など、児童生徒が自分で学ぶために必要な手立てを事前に指導しておきましょう。

#### 5 外部関係 団体と連 携するこ と

- 地域の日本語教室や学習支援教室等と連携する
  - 日本語指導や教科指導等については、授業時間だけでは十分ではない場合もあります。また、地域で外国人児童生徒を育てる体制づくりも必要です。地域の日本語教室や学習支援教室等と情報交換しながら、支援を進めていきましょう。
- 母語・母文化の保持に配慮する
  - 外国人児童生徒等のアイデンティティを保持するためには、児童生徒の母語、母文化を尊重し、習得を援助することが必要です。保護者や外部関係団体の協力を得ましょう。

### 3 進路相談について



#### 進路に関する準備は早い時期から始め、丁寧に情報を伝えよう！

外国人児童生徒等とその保護者が得られる進路に関する情報のほとんどは、学校からのものです。身近にロールモデルとなる先輩等の存在は少なく、母国と日本との違いから、進路に関するイメージが異なることもあります。

学校は、保護者が初めて日本の学校制度や進路に関する情報を得るのだということを想定して、丁寧に説明や相談をしましょう。進路や進学については、児童生徒が保護者に相談することが難しい場合も多いということを理解し、児童生徒の思いや希望を丁寧に聞き取りましょう。

また、県や市が実施する「外国人児童生徒等にかかわる就学支援ガイダンス」(p.70)等を紹介するなど、進路に関する情報を得る機会を増やし、早い段階から進路について考え、準備できるよう支援しましょう。

#### 1 進級に関する こと

- 日本の学校の進級制度について説明をする
  - ・ 留年制度のある国の保護者の中には、進級することは学年相当の学力がある、と解釈する可能性があります。進級制度については、転編入学の面接で丁寧に説明しましょう。

#### 2 進学に関する こと

##### 【進路指導】

- 進路希望の把握をする
  - ・ 転編入学時の面接で進路希望を聞いておきましょう。
- 小学校から進学のイメージを持つための説明をする
  - ・ 保護者も児童生徒も、日本での進学について知らなかったり、母国での価値観で進路を考えたりしている場合があります。
  - ・ 高校に入学するためには入学試験に合格する必要があることを説明する必要もあります。
- 早い段階から進学についての面談を行う
  - ・ 高校進学を見通して、将来の希望や成績、児童生徒の現状について十分に話し合っておくことが大切です。
  - ・ 情報共有をしっかりとするためにも、子ども多文化共生サポーター等や多言語相談員等(母語支援者)を活用しましょう。

##### 【留意点】

- ・ 進学が厳しい状況であることを、中学3年生になって初めて保護者と本人が知ったという事例もあります。きめ細かな情報提供と日本語指導・学習支援が必要です。

### 3 就職に関すること

- 就職希望の有無の把握をする
    - ・保護者と本人に、就職希望の意図を確認しておきましょう。
    - ・働きながら学ぶという選択肢（定時制や多部制）があることも早い段階で伝えましょう。
  - 就労可能な在留資格かどうか、確認をする
    - ・在留資格によって、就労制限の有無が発生します。
    - ・在留資格の変更には、条件があります。
- ※Q&A (p.87) を参照し、法務省 HP (p.147) で確認してください。

### 4 保護者会・懇談会に関すること

- 保護者会や懇談会の機会に、進路に関する情報提供をする
    - ・保護者が、進路等に関する情報を得る機会は多くありません。
    - ・家庭で児童生徒と進路について十分な話し合いができていない場合もあります。
  - 子ども多文化共生サポーター等や多言語相談員等（母語支援者）を活用し、情報を確実に伝えるようにする
    - ・日本語による情報提供が難しい保護者には、多言語相談員等の通訳者を依頼して、確実に伝わるようにしましょう。
    - ・通訳者とは、事前に保護者に提供する内容について共通理解を図っておくことが望ましいです。
  - 就学支援ガイドブック（多言語版）等※を活用する →p.147
    - ・多言語版の資料等、補助資料の活用も検討しましょう。
- ※子ども多文化共生センターHPに掲載

転編入学後から各学年で計画的に説明しましょう。

#### 【保護者会・個別懇談会で説明する項目（例）】

- 1 日本の進学状況や高校を卒業する意味
- 2 公立学校、私立学校、専門学校の違い
- 3 全日制、多部制、定時制、通信制の課程について
- 4 学科について（普通科や専門学科、総合学科）
- 5 特色選抜と推薦入試について
- 6 複数志願選抜制度について
- 7 学力検査（一般入試）と調査書について
- 8 外国人特別枠選抜について（対象となる場合）
- 9 日本語指導が必要な生徒への特別措置について
- 10 高校生活に必要な費用について
- 11 奨学金制度について

## 4 入学者選抜における進学先について

兵庫県では、公立高等学校の入学者選抜において、外国人生徒の特別定員枠を設定しています。また、帰国・外国人児童生徒に配慮した入試を実施する学校があります。入学者選抜について詳しいことを知りたい場合は、兵庫県教育委員会事務局高校教育課のHPや各学校のHPで確認してください。

令和2（2020）年3月末現在

### 1 兵庫県立芦屋国際中等教育学校（前期課程…中学校に相当）

- (1) 通学区域：県内全域
- (2) 出願資格：小学校を卒業見込みの者等で、6年間継続して学ぶ意欲があり以下のいずれかに該当する者
  - (ア) 日本語や日本文化への理解が不十分な外国人児童で、来日5年以内で、かつ日本国籍を有しない児童
  - (イ) 海外から帰国した児童で、帰国5年以内で、かつ継続して1年以上海外に居住した児童（保護者の海外勤務に伴い海外における在住期間がある者）
  - (ウ) 本校の教育目標を理解し、留学や海外での生活等をめざして特に入学を希望する児童
- (3) その他：
  - (ア) 12月までに、小学校の先生によく相談することが大切である。
  - (イ) 後期課程（高等学校に相当）は、基本的に募集はなく、定員に欠員が出た場合にのみ募集される。

### 2 外国人生徒にかかる特別枠選抜

県立全日制高等学校で学ぶ意欲があるにもかかわらず、渡日間もなく日本語運用能力やコミュニケーション能力が十分でない外国人生徒を対象に、入学者選抜方法の工夫、入学後の学習支援を行う特別枠選抜を5校で実施しています。

- (1) 実施校：5校 ※入学定員とは別枠で募集
  - ・ 県立神戸甲北高等学校（総合学科）
  - ・ 県立芦屋高等学校（普通科（単位制））
  - ・ 県立伊丹北高等学校（総合学科）
  - ・ 県立加古川南高等学校（総合学科）
  - ・ 県立香寺高等学校（総合学科）
- (2) 通学区域：県内全域
- (3) 出願資格：外国籍を有する者で、入国後の在日期間が、入試実施年度3月末現在で3年以内の者等
- (4) その他：合格とならなかった場合は、3月中旬に実施される学力検査等を受検することができる。

### 3 帰国生徒にかかわる推薦入学

#### (1) 実施校一覧（令和3年度入試）

学校名	学科・コース名	通学区域
県立尼崎小田高等学校	国際探求学科	県内全域
県立鳴尾高等学校	国際文化情報学科	
県立国際高等学校	国際科	
県立明石西高等学校	国際人間科	
県立三木高等学校	国際総合科	
市立葺合高等学校	国際科	
市立琴丘高等学校	国際文化科	
県立神戸鈴蘭台高等学校	国際文化系コース	普通科に準ずる
県立宝塚西高等学校		
市立伊丹高等学校		
県立明石城西高等学校		
県立姫路飾西高等学校		

#### (2) 出願資格：中学校を卒業見込みの者等

※ 外国における在住期間が1年以上等の条件に該当する者は、帰国生徒にかかわる出願ができる。

※ 保護者とともに県内に住所を定める見込みの者。

#### (3) その他：合格とならなかった場合は、3月中旬に実施される学力検査等を受検することができる。

### 4 学力検査等に関する特別措置の留意点

学力検査実施上配慮が必要と考えられる場合においては、中学校長が高等学校長にあらかじめ申し出ることにより、学力検査問題への振り仮名や検査時間の延長が可能になる場合があります。

## 5 奨学金や就学資金に関する制度について

家庭の経済的状況等にかかわらず、外国人児童生徒等や学ぶ意欲と能力のある生徒が安心して希望する教育を受けられるように様々な支援制度があります。就学援助事業等に関する情報は、本冊子の資料編 p.118～p.119 を参考にしてください。それぞれの制度の詳細等については、担当機関に問い合わせてください。





## 2 外国人児童生徒等にかかわる就学支援ガイダンス

(1) いつ実施していますか？

→毎年7月～9月に県内4会場で実施しています。

(2) どこで実施していますか？

→神戸市、姫路市、その他2会場（実施市町は毎年変更）

(3) だれを対象にしていますか？

→①外国人児童生徒等及びその保護者など

②外国人児童生徒等にかかわる教職員

③外国人児童生徒等の支援にかかわる者など

(4) どうしたら参加できますか？

→毎年6月に各学校へ案内を送っています。

事前に子ども多文化共生センターに申し込んでください。

また、同時期に子ども多文化共生センターのホームページでも申込書をダウンロードできます。

(5) 子どもも保護者も、日本語がわかりません。参加して大丈夫ですか？

→大丈夫です。通訳が必要な言語を記入して申し込んでください。

(6) どんな内容のガイダンスですか？

→・就学及び高校入試に関する説明

・外国人の先輩による体験談

・個別の教育相談（原則、事前申し込みが必要）

【当日の様子】 全体説明



\*\*\*\*\*【外国人の先輩による体験談で読まれた作文一部紹介】\*\*\*\*\*

私は、10歳の時にベトナムから日本に来ました。学校では、言葉が通じないため自分の気持ちを伝えることができず、困ったことがあっても我慢したり、周りの友達に笑いながら話しかけられると悪口を言われているような気がして怖い思いをしたりしました。また、ベトナムと日本の文化の違いにより辛い経験もたくさんしました。その一つは、舌打ちです。ベトナムでは舌打ちをすることは悪いことではなかったので、私は癖でよく舌打ちをしていました。ある日、先生の前で舌打ちをすると叱られてしまい、そこで初めて日本では舌打ちはよくないことだと知りました。二つ目は、給食の食べ方です。スープが出たときにご飯にかけて食べていると、周りの友達に「あり得ない！」というような表情をされました。ベトナムでは、ご飯にスープをかけて食べることは普通ですから私は驚きました。

母も日本語がわからない状態で一生懸命働いていましたが、職場では辛い思いをしていました。そんな母を心配させたくないと思い、学校で辛いことがあっても相談することはできませんでした。いつも家から出ることが怖くて、ベトナムに帰りたいと毎日のように泣いていました。

そんな時、私を助けてくれたのは、日本語教室の先生でした。学習塾のようにお金を払っているわけではないのに熱心に教えてくれました。そのおかげで、日本語だけでなく日本の文化についても学ぶことができ、日本での生活に慣れていきました。

私は、皆さんに伝えたいことがあります。学校で勉強するより早く仕事をしてお金を稼いだ方がいいと思ったことはありませんか？日本語が十分できなくても日本で働いている人がいるから難しい勉強をする必要はないと考えたことはありませんか？そのような気持ちになっても日本語を勉強することを諦めないでください。日本語をしっかり勉強して理解できるようになると、仕事に対する選択肢が広がってきます。いろいろなチャンスをつかむことができるのです。その中から自分に合った仕事を選ぶことができます。また、病院や役所での難しい手続きを自分の力であることができるので、通訳を雇ってお金を払っていたことも必要なくなるのです。家族や友人を助けることもできます。

日本語を勉強したり、学校の教科の勉強をしたりすることは決して簡単なことではなく、様々な困難があると思います。私は勉強していて難しくて諦めそうになった時には、日本語を上手に話している自分の姿をイメージしたり、学ぶことでつかんでいける職業について考えたりして乗り越えてきました。

勉強するのは大変ですが、私達だからこそ味わえる喜びもあります。自分の夢に向かってがんばってください。



「外国人児童生徒等にかかわる就学支援ガイド」より